

かんきょう活動センターだより  平成26年度冬号



**フクジュソウ**  
北海道から九州にかけて分布し山林に生育する多年草で花期は初春。  
花は黄色で4cmほどです。漢字では「福寿草」と書き、新年を祝うめでたい名前で春を告げる花のため元日草（ガンジツソウ）や朔日草（ツイタチソウ）の別名を持ち、正月飾りに使われます。市内では府中市郷土の森博物館（梅林）などで見られます。

郷土の森博物館のフクジュソウ

**環境保全活動センター事業開催  
郷土の森博物館で府中の自然と歴史を知ろう！**

環境保全活動センター事業として、梅まつり開催期間中の、リニューアルされた郷土の森博物館で、府中の自然と歴史等の話を、学芸員により説明いただきます。

- 日時 平成27年3月7日（土）午前10時～正午
- 場所 郷土の森博物館内及び梅林等
- 費用 無料（入園料別途必要、自身の証明となるもの持参）
- 主催 環境保全活動センター
- 内容・申込等 2月11日号広報ふちゅうにて掲載

**東芝ソリューショングループ環境フォーラム開催結果**

東芝ソリューショングループ主催、府中市及び環境保全活動センター後援の「東芝ソリューショングループ環境フォーラム」が、東芝グループCSR（企業の社会的責任）月間行事として、12月8日（月）に府中グリーンプラザにて開催されました。今年で9回目となる本フォーラムは、約520人が参加し、当日はプロ・ナチュラリスト（プロフェッショナルの自然案内人）の佐々木洋氏により『まちの生きものが教えてくれること』と題して講演されました。講演では、街の中で生息している動物、野鳥など様々な生きものの意外な習性や行動をクイズ形式のユーモラスなお話で、わかり易く解説していました。また、野生の生きものに餌を与える事など、人の過剰な関与により生態系に悪影響を及ぼしている事例などを豊富な観察映像で紹介し人と生きものが共生していくために、生きものの生態や自然環境に関心を持つことの大切さについて、考えさせられるものでした。

講演後の参加者アンケートでは「同じ街に住む生き物たちを大切に、彼らが暮らしやすい環境づくりをしていきたいと思いました」などの意見がありました。



園内梅林風景



## 府中かんきょう塾2014修了式実施

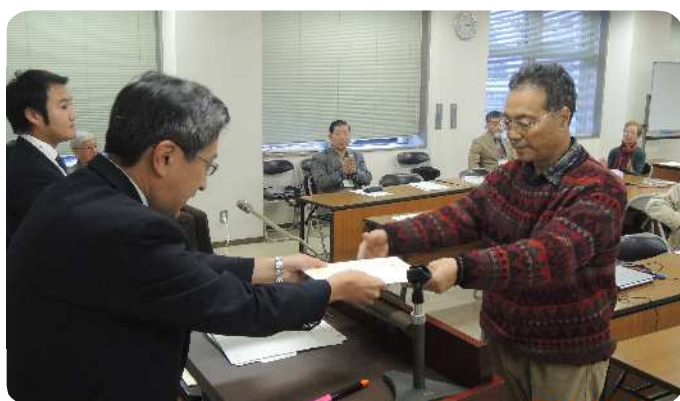
今年度は、22名の参加者のもとに、5月に第1回環境講座として開始した通年講座かんきょう塾は、12月で最終回を迎え、同時に修了式を行いました。これまでの講座では、途上国の子どもたちの生活環境、地球温暖化とその適応策、現在注目されているPM2.5や光化学オキシダント等の大気汚染問題及び人間と自然の関係を論じる環境哲学について、それぞれの専門家から講義を受けました。

また、環境関連施設見学会では、地球温暖化や太陽光発電などの再生可能エネルギーやごみなどの資源環境について学べるかわさきエコ暮らし未来館及び最新技術が導入されている浮島ゴミ処理センターを訪ねました。

### 府中かんきょう塾2014プログラム

- 5月17日 開講式 子どもたちと環境について
- 6月14日 地球温暖化と適応策について
- 7月12日 大気汚染と私たちの生活
- 9月11日 環境関連施設見学
- 11月1日 環境破壊と私たちに託されていること
- 12月13日 グループ活動成果発表 修了式

塾生は、修了式に先立ち「府中名木百選の現状調査」「府中の分別したごみ資源の行方」「桜通りの桜による交通障害調査他とその対策について」のテーマで、この7か月自主的に取り組んできたグループ活動の成果を発表しました。歩行障害となっている枝の剪定など、成果の一部は既に市に採用、実施されております。



修了証書を受取る受講生

通年講座かんきょう塾は、タイムリーなテーマを取上げた講座と、自然に親しむ野外活動や環境関連施設見学会を通して、環境問題について学びます。講座内容は難しいものではなく、専門知識がなくとも十分理解できるものです。

5月に開催予定のかんきょう塾2015に、皆様のご参加をお待ちしています。

## 環境のお話と多摩動物公園自然体験のつどい開催結果

東京ガス多摩支店・多摩動物公園主催の「環境のお話と多摩動物公園自然体験のつどい」が12月7日(日)に多摩動物公園(日野市)にて開催されました。

本イベントは、生物多様性と私達の暮らしについて学ぶと共に、東京ガス多摩支店エリア12自治体の環境への取り組みを紹介することを目的に開催されているものです。



多摩動物公園 自治体の環境活動パネル展示

今年で5回目となる今回は、家族65組229人が参加し、当日は福田多摩動物公園園長の挨拶、長谷川東京ガス多摩支店長の挨拶の後、多摩支店により「エコ&食育で地球と一緒に元気になろう」と題し、地球にやさしい暮らし方についての紹介がありました。続いて、ジャーナリストで元朝日新聞編集委員の武田剛氏が「丸い地球を歩く」と題して講演されました。武田氏は南極観測隊に同行取材した経験やグリーンランド、ヒマラヤなどで撮影した写真をもとに地球温暖化が進行している事実を訴え、環境の大切さについて改めて認識させられるものでした。

展示スペースでは、東京ガスと本市を含む12自治体の環境への取り組みをパネルで紹介し、クイズを通して親子で環境について理解を深める場となっていました。

本市のパネルは、東京ガス多摩支店などに協力をいただいで開催している「クール・エコの集い」を紹介するもので、打ち水の効果など



府中市パネル

## サポーター団体関係事業開催結果

### 田んぼの学校修了式

(NPO法人 府中かんきょう市民の会 寄稿)

田んぼの学校2014は、5月の田植えから始まり7月の田の草取り・生き物さがし、9月の稲刈り10月の脱穀・もみすりと続き、11月16日の「収穫祭・修了式」で無事終わりました。

田んぼの学校は、府中かんきょう市民の会が府中市から受託し行う市民体験型農業です。東京農工大本町農場を使わせていただいて実施している事業で、今回で9回目を迎えました。

修了式の会場は中央文化センター、参加した市民は、生徒27人、保護者41人、スタッフとしてかんきょう市民の会15人、府中東高校生物部5人、農工大4人、援農ボランティア4人、府中市4人、総計100人でした。

朝から保護者とスタッフが協力して、田んぼの学校で収穫したお米を使ったおにぎり、押立町の畑で採れたサトイモ、サツマイモ、ナガネギ、ダイコン、カブを使った豚汁を作り、昼食としておいしく完食しました。

中でもおにぎりは、みんなでつくった無農薬のコシヒカリの新米を精米した直後に炊いたものでしたから、特に好評でした。

ご飯ができるまでの間は、府中東高校生によるバルーンアートや折り紙を実施しました。

昼食後は今年の田んぼの学校のDVD放映で、この半年を振り返り、絵日記と作文の発表の後、生徒全員に写真入りの修了証を手渡し、終了しました。



修了証書を受取る参加者

### 「浅間山ダイヤモンド富士」親子観賞会

(浅間山自然保護会 寄稿)

日時 平成26年11月22日(土)

場所 都立浅間山公園

若松小学校には、父母が中心になって浅間山班が結成されています。

春・秋の全山清掃、6月のヤマユリの手入れなど、浅間山の自然環境保全活動に協力してもらっているお礼に、7月にはヤマユリの観賞会、11月にはダイヤモンド富士の観賞会に親子を招待しています。

今回のダイヤモンド富士の観賞会では、万一天候不良でダイヤモンド富士が観賞できなかったら、子どもたちが失望することを考え、15時に集合してもらい、コマやヤジロペーなどのドングリ細工で遊んでもらいました。



中学生に指導を受ける小学生

今回は全山清掃に参加するようになった浅間中学校からも教師と生徒が駆けつけてくれました。小学生の弟、妹たちにドングリ細工のお手伝いをお願いしました。中学生の周りに小学生の輪ができ、お互いに楽しんでいた風景は微笑ましく、見ていた私たちも楽しくなりました。16時頃からダイヤモンド富士の観賞場所に移動し、既にカメラを構えたり、日が沈むのを今か今かと待ちわびている人が約50人いました。16時15分太陽が富士山頂に沈み始めると、太陽の輪郭もはっきり見え始め、完全に沈みきるまでの幻想的な光景に感嘆の声が聞かれました。そのあとの赤く染まった夕日の中の富士山のシルエットの素晴らしさにも感激していました。「身近にこんな素敵な場所があるなんて知らなかった」と感想を述べ、ダイヤモンド富士を堪能していました。



浅間山からのダイヤモンド富士



## エコ・プロダクツ2014出展 府中東高校ステージ発表

12月13日～15日まで東京ビッグサイトで開催された、日本最大級の環境展示会であるエコプロダクツ2014に、府中市も参加しているオール東京62市区町村共同事業「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」が出展しました。

今年は、「東京ecoの森2014 東京の空の下 みんなでつくる 森の祭」をテーマとして、ブース全体をお祭り仕立てにし、屋台風にした各自治体ブースを来場者に観ていただきました。

計32自治体の個性あふれる環境活動を、パネル展示・ワークショップ・ステージショー・スタンプラリーなどで紹介し、府中市からは「府中東高校生が育てたグリーンカーテン用苗の配布」「ツバメの集団ねぐらの復活」「浅間山のムサシノキスゲの保護」についてのパネル展示や説明を行い、府中市をPRしました。

ステージでは、市と連携して実施した府中東高校生物部によるゴーヤ・ヘチマによるグリーンカーテン普及啓発の取組みやミツバチの養蜂などの地域にねざした環境実践研究について、生徒たちの日頃の活動の成果がわかりやすくまとめられた発表があり、大変賑わいました。

クイズ正解者には生徒たちが作った蜂蜜が手渡されるなど、観覧者の笑顔が印象的でした。



府中東高校によるステージでの環境への取組み発表

## サポーター募集

各種見学会での案内やホームページ、会報の作成、環境学習講座等、センター活動にご協力いただける方を募集しています。

環境保全活動に関心をお持ちの方ならどなたでも、サポーターとしてご登録いただけます。

また、企業及び団体単位でも募集していますので、ご応募をお待ちしています。

お問合せは、環境保全活動センターへ。

## 府中市環境保全活動センター

環境保全活動センターは、環境保全活動機会の提供及び環境問題に関する相談等を通じて、市民、事業者及び学校等が行う環境保全活動への取組みを支援しています。

所在地 〒183-0056

府中市寿町1丁目5番地

府中駅北第2庁舎7階

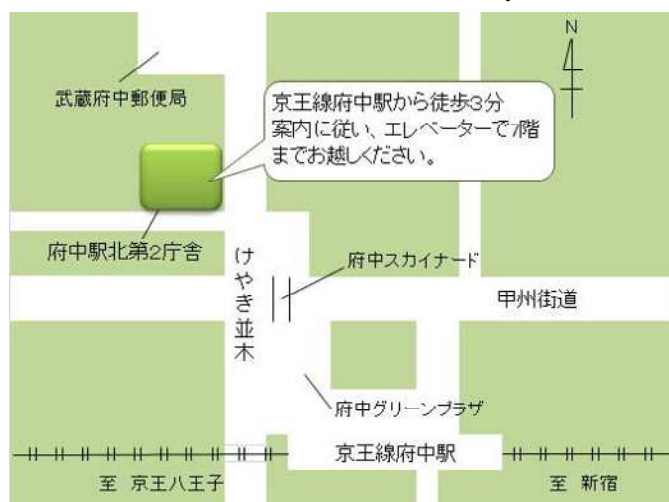
電話番号 042-335-4410

利用時間 午前9時から午後5時

休業日 土曜日、日曜日及び祝日、年末年始  
(12月29日から1月3日)

ホームページ <http://fuchu-kankyo.com>

メールアドレス [mail@fuchu-kankyo.com](mailto:mail@fuchu-kankyo.com)



### 編集後記

「江戸時代の循環型社会から学ぶ」

江戸時代のモラル「もったいない」という言葉は、下肥、し尿を回収して肥料として利用したり、紙屑買い、屑屋などのリユース・リサイクルといった循環型社会がもたらした背景から形成されたもので、道徳としての独自性、素晴らしさを江戸時代から学ぶことのできる言葉である。つまり、3R(Reduce, Reuse, Recycle)+Respect(尊敬、敬意)の概念を一語で表せる言葉＝「もったいない」である。

2004年ノーベル平和賞受賞者で、ケニア出身の環境保護活動家(ワンガリ・マータイ氏)によると、「もったいない」に匹敵する言葉が他に見つからないという。「おもてなし」と同様「もったいない」はこれから世界に通用する日本語となり得るかもしれない。

(編集委員 A・T)

発行日 平成27年1月23日(金)

編集・発行 府中市環境保全活動センター  
広報活動部会

次回発行予定 平成27年4月